

30 生畜第 297 号  
平成 30 年 5 月 11 日

日本草地畜産種子協会 会長 殿

農林水産省生産局飼料課長

稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル等に掲載される農薬について

「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（稲WCSマニュアル）」及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について（粳米通知）」に掲載を**希望する農薬の審査**について、下記のとおり申請を受け付けますので、受付期間内に別添様式及び申請農薬に係るデータを整理の上、提出願います。

記

- 1 受付期間：平成 30 年 6 月 1 日（金）～6 月 22 日（金）  
受付時間：平日（月～金）10:00～11:30、14:00～17:00
- 2 申請方法：書面により 2 部提出  
事前に来庁日時を電話又はメールで連絡した上で、農林水産省飼料課に書類を持参してください。  
受付後、当日を含め 3 営業日以内にメールにて電子媒体形式 (Excel データ) でも提出願います。
- 3 提出先：農林水産省生産局畜産部飼料課  
東京都千代田区霞が関 1 丁目 2 番 1 号 北別館 2 F ドア No. 北 204
- 4 提出様式：別紙 1 及び別紙 2 (Excel 表)

【連絡先】

農林水産省生産局畜産部飼料課  
飼料生産計画班 谷口、沖  
直通：03-3502-5993  
Email：osamu\_oki000@maff.go.jp

(別紙1)

稲WCSマニュアルに掲載を希望する農薬の申請リスト												
申請日												
会社名												
担当部署												
担当者名												
連絡先	電話					審査希望農薬数	飼料課記入欄					
	FAX						受付日					
	Email						受付番号					
番号	農薬分類	農薬一般名・剤型	条件の追加 又は削除	代表商品名	有効成分・含量	既にマニュアルに記載されている 場合は、 該当剤*に関する情報	作物残留試験 【残留:あり・なし】	乳汁移行試験	家畜代謝試験	家畜残留試験	MTDB試算	備考
1												
2												
3												
4												
5												
(注意事項)												
1. 農薬分類⇒殺虫剤、殺菌剤、殺虫殺菌剤、除草剤等を記入。除草剤の場合は、移植、直播の別を記入する。												
2. *該当剤⇒処理方法、最高処理量、(液剤⇒○ppm、固形剤⇒△△g/10a)および剤型を記載。												
3. 既掲載から剤型の読み替えの場合は、備考欄に詳細を記入。												
4. 新規に作物残留試験データ、家畜試験データがある場合は、試験結果を別途CD等で4枚提出のこと。(飼料課、畜水産安全管理課、農薬対策室、FAMIC分です)												
5. 稲WCSに残留している場合には、家畜残留試験に関する情報を記載すること。なお、乳汁移行試験および家畜代謝試験については試験データがあれば記入すること。												
6. 稲WCSに残留し、且つ新たにマニュアルへの掲載を要望する有効成分については、MTDB計算における入力シートを別添で提出すること。												

(記入例)

稲WCSマニュアルに掲載を希望する農薬の申請リスト												
申請日												
会社名												
担当部署												
担当者名												
連絡先	電話										飼料課記入欄	
	FAX										受付日	
	Email	審査希望農薬数									受付番号	
番号	農薬分類	農薬一般名・剤型	条件の追加又は削除	代表商品名	有効成分・含量 (最大処理量・濃度)	既にマニュアルに記載されている場合は、 該当剤*に関する情報	作物残留試験 (残留:あり・なし) (処理量・濃度)	乳汁移行試験	家畜代謝試験	家畜残留試験	MTDB試算に用いた データ	備考
1	殺虫剤	A乳剤	-	D乳剤	A・20% (200ppm(1000倍希釈))	未掲載	H26 (一社)草地種子協会 (残留あり) (200ppm)	H23 全農 籾米事業 (社)日本科学飼料協会		H23 全農 籾米事業 (社)日本科学飼料協会	あり (別添)	
2	殺菌剤	B・C粉剤	育苗箱での使用に限る	E粉剤	B:4% C:0.5% (8g/育苗箱, B:6.4g a.i./10a, C:0.8g a.i./10a)	B粉剤 (4% 8g/育苗箱 6.4g a.i./10a) C:未掲載	B 必要な試験成績は、●●社から △△年にFAMICに提出済み。 C(草地種子協会より提出済み、 □□社情報)	C(□□社情報) H18 (一社)草地種子協会	C 乳牛 □□社より、8147号対応 としてFAMIC提出:平成27年○ 月×日	B H22全農 籾米事業 C(□□社情報) FAMIC提出日:平成27年○月 ×日	C:□□社から提出予定	
3						既にマニュアルに掲載されている場合には、 農薬の一般名・剤型を記載する。 審査希望農薬をカバーしている ことがわかる剤を記載する。						
4												マニュアル未掲載の新規剤で、 WCSの作物残留があるものは、 MTDBの"入力シート"を提出して ください。 この欄には、MTDB計算のありなし を記載し、試算した入力シートを 別途提出してください。また、 MTDB計算シートが当該有効成分の 責任メーカーから提出される場合 には、その旨を記載してください。
<p>(注意事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農薬分類⇒殺虫剤、殺菌剤、殺虫殺菌剤、除草剤等を記入。除草剤の場合は、移植、直播の別を記入する。</li> <li>2. *該当剤⇒処理方法、最高処理量、(液剤⇒○ppm、固形剤⇒△g/10a)および剤型を記載。</li> <li>3. 既掲載から剤型の読み替えの場合は、備考欄に詳細を記入。</li> <li>4. 新規に作物残留試験データ、家畜試験データがある場合は、試験結果を別途CD等で4枚提出のこと。(飼料課、畜産安全管理課、農業対策室、FAMIC分です)</li> <li>5. 稲WCSに残留している場合には、家畜残留試験に関する情報を記載すること。なお、乳汁移行試験および家畜代謝試験については試験データがあれば記入すること。</li> <li>6. 稲WCSに残留し、且つ新たにマニュアルへの掲載を要望する有効成分については、MTDB計算における入力シートを別途で提出すること。</li> </ol>												



(記入例)

籾米通知に掲載を希望する農薬の申請リスト

申請日											
会社名											
担当部署											
担当者名											
連絡先	電話									飼料課記入欄	
	FAX									受付日	
	Email	審査希望農薬数								受付番号	
番号	農薬分類	農薬一般名・剤型	条件の追加 又は削除	代表商品名	有効成分・含量 (最大処理量・濃度)	既にマニュアルに記載されている 場合は、 該当剤*に関する情報	作物残留試験 (残留:あり・なし) (処理量・濃度)	家畜代謝試験	家畜残留試験	MTDB試算に用いた データ	備考
1	殺虫剤	A乳剤	-	D乳剤	A・20% (200ppm(1000倍希釈))	未掲載	●●社から提出済み (残留あり) (200ppm)		H23 全農 籾米事業 (社)日本科学飼料協会	あり (別添)	
2	殺菌剤	B・C粉剤	育苗箱での使用に 限る	E粉剤	B: 4% C: 0.5%  (8g/育苗箱, B: 6.4g a.i./10a, C: 0.8g a.i./10a)	B粉剤 (4% 8g/育苗箱 6.4g a.i./10a)  C: 未掲載	B ●●社から△△年にFAMICに 提出済み。  C □□社から▲▲年にFAMICに 提出済み。	C 乳牛 □□社より、8147号対応 としてFAMIC提出:平成27年○ 月×日	B H22全農 籾米事業  C(□□社情報) FAMIC提出日:平成27年○月 ×日	C: □□社から提出予定	
3											
4											

2において、有効成分Bは申請者の管理有効成分ではあるが、有効成分Cは別会社の管理有効成分として記載

条件付きでマニュアル掲載を希望する場合は、この欄に条件を記載し、条件を付ける理由も簡単に記載してください。

既にマニュアルに掲載されている場合には、農薬の一般名・剤型を記載することがわかる剤を記載する。

新たに試験成績を申請者が提出する場合には、試験実施年及び試験施設名を記入すること。なお、既に提出済みあるいは、他社が今後提

マニュアル未掲載の新規剤で、WCSの作物残留があるものは、MTDBの"入力シート"を提出してください。この欄には、MTDB計算のあり・なしを記載し、試算した入力シートを別途提出してください。また、MTDB計算シートが当該有効成分の責任メーカーから提出される場合には、その旨を記載してください。

(注意事項)  
 1. 農薬分類⇒殺虫剤、殺菌剤、殺虫殺菌剤、除草剤等を記入。除草剤の場合は、移植、直播の別を記入する。  
 2. \*該当剤⇒処理方法、最高処理量、(液剤⇒○ppm、固形剤⇒△△g/10a)および剤型を記載。  
 3. 既掲載から剤型の読み替えの場合は、備考欄に詳細を記入。  
 4. 新規に作物残留試験データ、家畜試験データがある場合は、試験結果を別途CD等で4枚提出のこと。(飼料課、畜水産安全管理課、農業対策室、FAMIC分です)  
 5. 籾米に残留している場合には、家畜残留試験に関する情報を記載すること。なお、乳汁移行試験および家畜代謝試験については試験データがあれば記入すること。  
 6. 籾米に残留し、且つ新たにマニュアルへの掲載を要望する有効成分については、MTDB計算における入力シートを別途で提出すること。

## <参考>

### 1 稲WCSマニュアル等<sup>1)</sup>の改正の時期について

改正時期は、10月始めから10月末頃の改正を予定しておりますが、申請件数の多寡等により、予定している審査期間を超過することも想定されます。11月までに改正が間に合わないことも想定されますので、予めご了承ください。

原則、審査の結果が「掲載不可」となった場合の再審査は行わず、すみやかに改正することとします。なお、審査の結果「掲載不可」となった場合は、申請者にその理由を連絡しますので、次回以降の申請時に必要なデータを揃えて提出してください。

### 2 稲WCSマニュアル等への掲載の対象となる農薬について

#### (1) 対象となる農薬の要件（次の全てを満たすこと）

- ① 稲用に登録されている農薬であること。
- ② 以下の作物残留試験が実施されていること。
  - ア) 稲WCSマニュアルに掲載希望の場合は、登録された稲の使用方法により、稲WCSでの作物残留試験が実施されていること。
  - イ) 粳米マニュアルに掲載希望の場合は、登録された稲の使用方法により、粳米での作物残留試験が実施されていること。
- ③ ②の試験結果から、稲WCS及び粳米に残留しない又は残留していたとしても畜産物の残留基準値を超えないと確認された農薬であること。

なお、平成30年3月末までに農薬登録申請した新規農薬（残留農薬基準の設定を要するものを除く）については、申請リストの備考欄に農薬登録申請中であることを記載していただき提出していただいても構いません。ただし、マニュアル改訂の手続き終了までに当該農薬が登録になっていない場合には、マニュアル掲載対象外とします。

#### <参考> これまでの稲WCSマニュアル掲載対象農薬について

- ① 平成14年度までは、登録時のデータから稲わらへの残留性が十分に低いと認められる農薬や稲わらに残留しても牛の乳汁に検出されないことが確認されている農薬。
- ② 平成15年度以降に実施した稲WCSでの残留性試験や乳汁移行試験により残留性がないと確認された農薬。
- ③ 平成21年以降は、稲WCSでの残留試験の結果にかかわらず、畜産物の残留基準値を超えないことが確認された農薬。  
但し、平成26年以降は、稲WCSに残留しない農薬については、家畜試験は不要とした。

#### (2) 必要な試験成績

##### ① 作物残留試験

<sup>1)</sup> 稲WCSマニュアル等：「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について（粳米通知）」

- ア) 稲WCSにおける作物残留試験：2例以上（non-GLPでも可）
- イ) 粳米における作物残留試験：3例以上（GLP、ただし、実施時期によってはnon-GLPでも可）

② 家畜試験（家畜代謝試験及び家畜残留試験）

ア 家畜代謝試験：当面の間は不要

イ 家畜残留試験：1例以上（non-GLPでも可）

※作物残留試験の結果が定量限界未満の場合は不要。

③ MTDB試算における入力シート（別紙）。なお、当該シートは、当該有効成分の責任メーカーから提出すること。

注：既に稲WCS及び粳米の管理基準値が設定されている有効成分において、①の残留量が管理基準値のFAMIC内規を超過しなければ②及び③の提出は不要。但し、『稲WCS農薬申請リスト』の備考欄にその旨を記載すること。

(3) 申請に際しての留意点

1) 『乳汁への移行試験』のみで稲WCSマニュアルに掲載されている有効成分について

既にマニュアルに掲載されている有効成分の一部において『乳汁への移行試験』のみで掲載しております。これらについては、以下の運用とします。

① 当該有効成分を含む新たな農薬の掲載のためには、家畜残留試験の提出が必要。

但し、農水省事業<sup>2)</sup>の仔牛を用いた家畜残留試験成績と乳汁への移行試験を併用して利用する場合、乳汁への移行試験での投与量がMTDBで試算される1日当たりの最大摂取量を担保し、当該用量において有効成分が（規制対象に代謝物が含まれる場合は代謝物も）定量限界未満の場合には、マニュアルへの掲載は可能。

② 既にマニュアルに掲載している農薬については見直しを行わない。

2) MTDBシートに入力する値

検査において、MTDB計算シートに入力する数値は以下の運用で行っています。

① 飼料作物の残留基準値（“管理基準”を含む）または作物残留試験から想定される残留基準値を入力する。なお、作物における残留基準が代謝物を含む場合には、想定する残留基準値設定に代謝物の残留濃度を考慮すること。

但し、作物残留試験が4例以上ある場合には、MRLの代わりにHRを用いること。

② 家畜残留試験成績で参照する残留濃度は、畜産物の規制対象に代謝物が含まれている場合を除き、有効成分のみとする。

---

<sup>2)</sup> 農水省事業：全農が受託（平成21年度から開始）した『飼料用作物安全確保事業』を指す。なお、当該試験成績を参照する場合には、“家畜残留試験”のカラムに『試験名、実施年度』等の情報を記載する。

入力シート

農業名:   
 Log Pow:

予想飼料最大負荷量(MTDB)に関するデータ

	農薬登録の適用作物名	作物分析部位	作物 残留試験 回数	基準値(mg/kg)	HR(mg/kg)	STMR	備考(飼料原料)	
				(MRL)	(HR)	(STMR)		
国内産が利用される作物	稲(水稲、陸稲を含む)	玄米					米ぬか(GM/DF)	
		粗米					糠(米)(GG)	
		わら					藁わら(AF/AS)	
	(前項は飼料用草として分類)		WCS					稲藁製飼料(AF/AS)
	大麦(粟類を含む)	脱穀種子					大麦(GG)、大麦若芽ぬか(GM/DF)、ビールかす(SM)	
	小粟(粟類を含む)	玄粟					小粟(GG)、ふすま(GM/DF)	
	だいず(豆類(種実)を含む)	子実					大豆(VD)、大豆製かす(SM)、とうもろこし(SM)、大豆皮(SM)	
	ごま	子実					ごま油かす(SM)	
	てんさい	根					ビートパルプ(AB)	
	いね科牧草(牧草を含む)	茎葉					イタリアンライグラス(AF/AS)、オーチャードグラス(AF/AS)、サセシー(AF/AS)、その他のいね科(AF/AS)	
	まめ科牧草(牧草を含む)	茎葉					アルファルファ(AL)、その他のまめ科(AL)、アルファルファニール(SM)	
	飼料用えんぱく	茎葉					えんぱく(牧草)(AF/AS)	
	飼料用とうもろこし	茎葉及び雌穂					デントコーン(AF/AS)	
ソルガム	茎葉					ソルゴー(AF/AS)		
飼料用ライ麦(未設定)	茎葉					ライ麦(牧草)(AF/AS)		
国内産が利用されない作物	えんぱく(粟類を含む)	子実					えんぱく(GG)	
	ライ麦(粟類を含む)	子実					ライ麦(GG)	
	とうもろこし	子実					とうもろこし(GG)、ホシホーフィード(GM/DF)、コーングルテンフィード(GM/DF)、コーングルテンニール(GM/DF)、とうもろこしジュスナリーゼグレイン/リユブル(SM)、コーンジュンニール(GM/DF)	
	畜用ソルガム	子実					サイロ(GG)	
	なたね	子実					なたね油かす(SM)	
	やし(未設定)	子実					やし粉(SM)	

家畜残留試験成績に関するデータ

反芻動物

投与量

低用量:  mg/kg  
 中用量:  mg/kg  
 高用量:  mg/kg

最大残留濃度(<LOQの場合は、“LOQ値”を入力)

	低用量	中用量	高用量	LOQ
筋肉				
脂肪				
肝臓				
腎臓				
乳(平均)				

平均残留濃度(<LOQの場合は、“LOQ値”を入力)

\*

	低用量	中用量	高用量	LOQ
筋肉				
脂肪				
肝臓				
腎臓				
乳				

家禽類

投与量

低用量:  mg/kg  
 中用量:  mg/kg  
 高用量:  mg/kg

最大残留濃度(<LOQの場合は、“LOQ値”を入力)

	低用量	中用量	高用量	LOQ
筋肉				
脂肪				
肝臓				
卵				

平均残留濃度(<LOQの場合は、“LOQ値”を入力)

\*

	低用量	中用量	高用量	LOQ
筋肉				
脂肪				
肝臓				
卵				

\* 平均残留濃度の表には入力不要